森の駅伝大会
その1

もりの　えきでんたいかい　その1

作:近藤せいけん

その一

今日はまちに待った、一年一回の森の駅伝大会の日です。森の駅伝大会は、毎年秋、木の実が沢山なる頃に行なわれます。

スタートは大きなどんぐりの木から、青沼を渡って、そしてくり畑までの三つの区間で行なわれます。

どんぐりの木から青沼までが、一区間。青沼を渡って向こう岸までが、二区間。岸からくり畑までが三区間です。

赤組はきつねさん、いたちさん、たぬきさんのチームです。

青組は猿さん、かめさん、うさぎさん、のチームです。

いよいよ、スタートです。

審判はかっぱさんです。実況中継はとんびさんです。

一区。赤組はきつねさん、青組は猿さんです。

かっぱさんがスタートの笛を吹きました。

「よい～ピ、ピ、ピ～」

きつねさん、猿さんが、いきよいよく飛び出してゆきました。

とんびさんの実況中継です。

「いよいよ、恒例の秋の駅伝大会のスタートです。きつねさんが早い、早い、猿さんも早い。いまのとこの、どちらも同じです」

きつねさん、猿さんはがんばって、青沼の見える、丘の上まで来ました。きつねさんが猿さんに話かけました。

「猿さん、疲れたね。どうこの丘の上で、少し休んでゆかない。どう。」

「そうだね。一生懸命（いっしょうけんめい）走ったので疲れたね。そお、休むとするか」

「そうよ、そうそう、休もう、空のとんびさんもいないし」

きつねが猿は丘の上で休みました。

「猿さん、おいしいはちみつを食べない。あげるよ」

と「はちみつ」を猿に渡しました。

「きつねさん、ありがとう。じゃあ、いただくよ」

「うわぁ～甘くて、とても、おいしいーうまい、うまい」

狐さんが言いました。　「疲れたので、少し横になるよ」

「あ、あ、いいとも、休んだら、一緒にスタートしょう」
猿さんは「はちみつ」を食べ、お腹が一杯になったので、うっら、うっらしていました。
横になりながら、猿さんは狐さんを見ましたが、向こうを向いて、横になったまんまです。
猿さんは声を狐さんにかけました。
「もう、そろそろ、起きて、出発しょう」
でも、きつねさんは何も反応はありません。
変だなぁと思って狐さんを揺り起こしました。突然パァ～と煙が上がり、丸太になってしまいました。
「うわ～あ、狐め、だましたな」とあわてて、青沼に向かいました。
青沼には、すでに、審判のかっぱさんが立っていて、狐さんと赤組のいたちさんのバトンタッチを確認していました。
いたちさんは青沼に飛び込み、すでに泳いでいました。
青組の二番走者、かめさんがいまや遅しと、猿さんを待っていました。「わぁ～あ、かめさん、悪い、悪い、狐にだまされて遅れてしまった。ごめん、ごめん」
「大丈夫ですよ、猿さん、水は大得意です。まかして下さい」